

kirari yokkaichijin Vol.117

きらり四日市人

イラストレーター

ヒロミチイト(伊藤弘通)さん



本市在住のイラストレーター、ヒロミチイト(伊藤弘通)さんにお話を伺いました。

四日市市出身。イラストレーションを学ぶために渡米し、アカデミー・オブ・アート大学大学院を卒業。東京イラストレーターズ・ソサエティ-TIS会員。本の装画、雑誌の表紙、扉絵、挿絵を多数手掛ける。

イラストレーターを志したきっかけ

高校卒業後の進路を決めるときには、絵を職業にしようとは考えていなかったのですが、京都の大学の経済学部に進学しました。大学3年生のとき、大好きだったロックバンドのギタリストがソロアルバムのジャケットデザインを募集していました。応募してみたところ、ジャケットには採用されませんでした。ツアーグッズのバンダナに採用していただきました。そのときに、絵を仕事にするという選択肢が自分の中に生まれました。これをきっかけに、音楽が好きだったこともあり、海外のアーティストのジャ

ケットをデザインすることが夢になりました。彼らの楽曲を理解するにはまずは英語を学びたいと思い、渡米して英語の勉強をしてから、アカデミー・オブ・アート大学でイラストレーションを専攻しました。

これまでの制作活動で節目になった作品

シアターガイドという雑誌の表紙を描く仕事では、著名人の肖像画をたくさん描かせていただきました。肖像画というのは難しいジャンルで、他のイラストに比べて完成後の修正依頼が多いのです。作品の完成度と、描かれた本人や事務所の要望を両立させるのは容易ではありませんでした。しかし、自分を選んでくれた編集者のために、求められたものを描こうと思って取り組みました。また、イラストレーターにとっては、雑誌を手取るファンの人たちが喜んでくれるイラストを描くことが大切なのだと、肖像画の依頼を通じて気付くことができました。

故郷四日市に活動の拠点を移して

留学後すぐに上京して、16年以上東京で仕事をしてきましたが、コロナ禍の令和2年に、生まれ育った四日市に拠点を移しました。今は打ち合わせがオンラインでできるようになり、納品もデータですぐに送れるので東京にいなくても仕事ができる環境が整っています。実際に四日市に戻ってくるまでは不安もありましたが、今までと変わらず仕事できています。今後は、地元四日市に関わる仕事や、もっとプライベートな、ファミリーポートレートなども手掛けていきたいですね。



雑誌の表紙イラスト



オーストラリア記念館を描いた「僕の恐竜」



「Yokkaichi-Hometown」



絵本の表紙イラスト

12月放送のCTY-FM「よっかいち わいわい人探訪」(第2・4回 8:54/14:54)でも紹介します。